

狩野川神島公園供用開始予告フォーラム

報告書

日 時 令和5年7月29日（土）10時00分～12時30分  
場 所 アクシスカつらぎ（長岡総合会館）大ホール  
出 席 者  
基 調 講 演 米倉 誠一郎（一橋大学名誉教授、法政大学大学院教授）  
パネリスト 山下 正行（伊豆の国市長）  
大竹 弘孝（㈱JM 代表取締役社長）  
井川 弘二郎（狩野川利活用調整協議会長）  
辻川 比呂斗（順天堂大学保健看護学部准教授）  
中野 あゆみ（㈱わたしたち 代表取締役）

タイムスケジュール

10：00 開式  
10：05 演奏 宗光寺しゃぎり保存会  
10：20 山下市長あいさつ  
10：30 招待者紹介  
10：35 基調講演～日本一のかわまちづくり～  
11：00 パネルディスカッション  
～地域を元気にする人たちによるかわまちづくりへの期待～  
11：45 演技 伊豆の国チアリーディングチームPOWERFUL KIDS  
12：10 狩野川神島公園愛称発表  
12：15 樽酒割り  
12：20 閉式のあいさつ

## 1 開 式

伊豆の国市の皆様方に10月1日オープンの狩野川神島公園を日本一にするという思いについてご理解いただきたく開催するものです。

## 2 演奏 宗光寺しゃぎり保存会

## 3 山下市長あいさつ

いよいよ狩野川神島公園のオープンが10月1日に迫ってきています。

本当に皆様のご理解ご協力を心から感謝申し上げます。

この公園は、テーマが日本一ということになっておりますけども、日本一のかわまちの公園になるポテンシャルがあると思っています。

まずロケーションです。伊豆の国市のシンボルの一つであります私の大好きな城山と葛城山を西に見て、狩野川の右岸に広大な公園ができます。面積は14ヘクタールで、長さにして1.7キロの公園ですが、これをどう使うかというのはこれからアイディアを募り、また魅力を発信して、多くの市民、市外の方々、県外の方々、さらには海外の方々であるインバウンド、そういう多くの方々に親しまれて、またアウトドアの活動をしたいという形で、この公園が発展していき、地域の魅力の一つになっていくということを期待して、日本一の公園にしていきたいと思っております。

本日はどうぞよろしく願いいたします。

## 4 招待者紹介

## 5 基調講演～日本一のかわまちづくり～

日本一というテーマですけれども、結局我々が未来に何を残せるのかなと考えたときにやはり希望です。今日は楽観主義ということについて話したいと思います。

何とかなるさではなくて何とかする、今日本はそういうことが大事で、初めにお伝えしたいのは楽観主義でいこうと、日本一のかわまちづくりは楽観主義でいこうということなのです。

日本は戦後の復興、新幹線開通してオリンピック開催、5年後1969年には、当時の西ドイツを抜いて世界で2番目の経済大国になりました。その後のオイルショック、バブルがはじけることまで経験してきました。

今、誰一人取り残さないとうたうSDG s は環境も経済も両立させようとしています。

目標を立てて自分がどこへ向かうのか見えていることが大事です。

負けが込んでいるときは強い部分を思い出し、強い部分に資源集中するべきだと思います。

私は、SDG s は日本人に合っており、目標として悪くないと思います。

日本はイノベティブな国として認められ、ASEAN、日本人を除くアジアの人たちに聞いたときに、平和、安全保障、繁栄、あるいは自由貿易において最も信頼できる国として、

日本は61.2%と最も評価されています。

また、インバウンドに人気の日本の強みとなるものは自然、景勝地、美しい桜、次は、富士山です。日本一のかわまちづくりのためにあるようなデータではないでしょうか。5番目は食文化です。

また、治安の良さ、清潔さ。さらに、ショッピングに人気があります。

次に温泉も好きです。もう、このかわまちのためにあるようなデータです。

10個目が、日本独自の宿泊施設で、ホテルではなく、旅館や民宿という日本独自の宿泊施設です。

最も日本を訪れる人の多い国は、台湾です。2番目がアメリカ、今年4月から6月の最新データです。

その次に中国、韓国が来て香港、タイ、そして7位にオーストラリアです。

アメリカ、中国は、実は宿泊にお金を使って、彼らは高級ホテルや旅館にも宿泊します。

最も来訪者の多い台湾や韓国の人は宿泊費はあまり使いたくないようで、食べ物にお金を使っています。アメリカ人は1日当たり6,940円で、それに対して台湾や韓国は、7,300円から8,000円使っています。

アメリカ人の一番の目的は自然景観や神社仏閣です。マテリアリズムの国ですから、こういうものに興味を持つようです。中国の人は自然景観ですが特に富士山が好きです。

韓国の人は、リラックスです。温泉やマッサージなど。また、都市の公園の散策が好きです。

かわまちづくりでは、誰をターゲットにするのか。もちろん国内の人が大事だと思いますが、インバウンドだったら誰をターゲットにするのかを頭に入れてないと、ショッピングセンター作っても来ないことになります。

観光を目的とする人たちはどのように情報を得ているのかというと、YouTubeが44%で、なんと84%の人がインターネットからです。

アフリカのことわざで、好きな言葉で最近よく使われていますが、

If you want to go fast , go alone

If you want to go far , go together

ということわざがあります。

何でも自分でやるのではなくて、みんなで行おうということです。

敗戦で何もなくなり、それから20年後、オリンピックを開催してオイルショックも経て、日本がJAPAN as NO.1と言われる時代は、go aloneでした。

しかし、これからはgo togetherの時代です。

5年後、10年後ここに来たときに、地元の皆さんだけではなく、若者や海外の人がいないと、まちは活性化しないということです。一緒にgo far行ってみたいと思います。

どうもありがとうございました。

## 6 パネルディスカッション

～地域を元気にする人たちによるかわまちづくりへの期待～

<米倉氏>

この公園でまず、井川さんはどんな取り組みをして、どうやって日本一になろうと考えているのか教えてください。

<井川氏>

狩野川漁協は、昔からこの地域この場所で子供たちに鮎の友釣りを教えたり、川に親しむという取り組みをしてきました。また、アユのやな漁というものがあるのですが、アユが上流から流れてくるときに、それを取る方法もあります。

地域の人たちが公園に集まるとか活躍するという場所を作ることが一番大事だと思っていますので、人が集まる働きかけをすることが一番いいかなと思っています。

<米倉氏>

大竹さん、地域の人が集まるために、観光客よりもまずこの地域の人たちが集まるための工夫はされているのですか。

<大竹社長>

キッチンカーを公園の堤防に置きます。キッチンカーの側面に、看板を張り付けて、例えば、今日のような「狩野川神島公園フォーラムがあります」、「子供たちのイベントがあります」と市内を周遊しますので、見ていただいて、地元の方に来てくださいと周知することをやり続けます。

<山下市長>

アメリカのスクールバスを使ったキッチンカーでとても大きいです。中は本当にキッチンです。あのキッチンカーでまちを回っていただいて、ぜひいろいろPRをやっていただいて、あそこに行けば何か食べるものがあるなどお知らせしていただきたい。

例えば地元の野菜や、ジビエなどを使っていただいてもいいかもしれませんけども、キッチンカーを中心に、サイクリングで訪れた方々もそこに止まれば、何か飲食するものもあるということを認知されれば賑わいが出ると思います。

<米倉氏>

やはり賑わうというのはすごく大事だと思います。株式会社わたしたち、中野あゆみさんはどんな取り組みをなさってらっしゃるのですか。

<中野氏>

IZUCCOというローカルマガジンを作っておりまして、これは伊豆の国市の小学生たちと一緒に伊豆の国市内の取材をして、冊子を発行するというをやっています。

日本一のかわまちということ子供たちが自負して進学・就職で市外に出ていってもらえたらいいと思います。

大人たちが、ここは日本一のかわまちなのだということを、言い切る覚悟が子供たちにとってはかなり大事なのだと思います。

<山下市長>

景観を楽しんでもらい、食べるものもある。例えば、子供たちはポニーライドが好きですよね。市内には在来種の与那国馬の牧場がありますし、ヨーロッパなんかでは移動遊園地がよくあります。そういうのもあったらいいなと思っています。

<中野氏>

子供たちが知る体験をする、自慢ができるようになるということはとても大事なことで、そのときはぜひ取材できたらいいと思います。

<大竹社長>

公園には、おもしろ自転車といって、普通には乗れない種類の自転車を置いておきます。これまでの経験上、子どもたちがとても喜ぶます。そのほかにも、スケートボードもありますが、自分たちで遊べる芝生広場がありますので、子供たちが自分たちで遊びを考えるようにしたいと思っています。また、バーベキューやキャンプも、親御さんと一緒に楽しめます。楽しめば人が集まるし、そんな公園を作り出したいと思っています。

8月19日のプレオープンでは、熱気球も飛ばします。箱物を作らなくても楽しめる、そういう場所を作り出したいです。

<辻川氏>

順天堂といえば病院を思い浮かべると思うのですけれども、私は、普段は三島の大学で教員をして病院に看護師や保健師を送り出しています。大学生が、地域を知ることがその後の看護にも生きればいいなということをイメージしながら、普段、そのような場を設ける企画をしています。

まちづくりという点でも、学生もそうですが、地域を知って楽しい体験から、普段、地元の子どもたちがそこに通って、何気なく生きながら、どんどんそこが好きになるような場所になれば、先ほどの自負を持てるのではないかと思います。

<井川氏>

鮎の友釣りは、鮎の縄張りを持つという習性を利用した釣りですが、これが世界の釣り人にはとても注目をされています。

そういったニッチな世界ですが、それを何も持たないで現地に来て、ガイドしながら教えてあげるなど、漁協としてはそのような尖ったものを、支援したいと思っています。

<大竹社長>

今、TikTokや、YouTubeなど、SNSを使って自分の行動を外に発信するということが増えているので、この河川敷にイベントエリアを作りました。

ここで自分たちが踊ったり歌を歌ったり、自分を主張してもらう場を設けようと思っていますので、ここで青空イベントができます。

<米倉氏>

84%の観光客が、YouTubeやTikTokなどのSNSで、情報を得ています。

この現実を踏まえると、広報活動は、良いと思うものを押し付けるのではなく、来た人たちがいいと思ったものを発信してもらおうという仕組みが必要そうです。

<山下市長>

今日の先生の講演で改めてYouTubeの重要性を知りまして、このYouTubeを使って一方的に発信するのではなく、来ていただいた方にYouTubeで発信していただくという取り組みがポイントだと思います。

<中野氏>

子供たちが普段自分のいる場所ではできない体験や、ここでしかできない体験時間みたいなものを共有できると、また来たいということになるので、体験が大事ではないかと思えます。

<辻川氏>

楽しいや美味しいということを授業の中にも組み込んで、それも体験の一部だと思っています。この地域でないと食べられないものとか、キャンプ実習を通して、ストレス解消のためにここに来るといことが循環として生まれてくると思えます。

<米倉氏>

友釣りは愛好会を作ったら、受けると思えます。昔からこの地域の人には鮎の友釣りをする人が多かったので、来て面白いということをもっとアピールしなくてはいけないと思えます。

<山下市長>

最近はですね、ペットと一緒に旅行する家族が多いと思えます。川の駅にドッグランもありますし、宿泊施設も犬と一緒に休息できる旅館もありますので、そういうポテンシャルもあると思えます。

<米倉氏>

日本一ということキーワードにすると、何が売りでしょうか。

<中野氏>

日本一の場所だということ、関わる人、地域の人、そして子供たちが言い切っていくことによってそれが共感や驚きとして広がっていく。外に広がっていくということなのだと思いますので、言い切るのだと思えます。

<辻川氏>

ここにしかないもの。美味しいものなど、そこへ来れば楽しめるという、日本で唯一、ここで体験できるというものを創出し続ければ、時代が変わってもあり続けると思えます。

<井川氏>

魅力を作るにも綺麗な場所を保たなければいけない。景観を保たなければいけないと思えます。それには地域の人があるところに関わっているということがすごく大事だと思うので、まずはそこをやっていないと、日本一にはなれないと思っています。いろいろな団体が関われる場所をつくっていきたいと思えます。

<大竹社長>

皆さんが楽しんでもらえる場所として最高のエリアになるように、自由に使ってアイデアをぶつける場所にしてもらいたいです。

<山下市長>

人間も動物も、みんな賑やかに楽しく盛り上げて、また、近隣の市町の方々とも連携して行けたらいいと思っています。

<米倉氏>

日本一のかわまちづくりと言い切るところはとても良いと思えます。大宣言ですから、ここが日本一として輝くことをお祈りして今日のパネルを終えたいと思えます。

## 7 演技 伊豆の国チアリーディングチームPOWERFUL KIDS

### 8 狩野川神島公園愛称発表

愛称は「川の駅〇〇」というように、名称を6月1日から23日までの間、市内に在住勤務、通学されている方から広く募集しました。

208名の方から応募があり、同じ愛称のものを整理すると、189作品ありました。

狩野川利活用調整協議会の委員15名の皆さんに応募作品の中から作品を選んでいただき第1順位2点、第2順位1点で採点をし、最多得票の作品を愛称として決定しました。

それでは、愛称の発表をいたします。

「川の駅 伊豆城山」です。

この愛称を応募していただいたのは、お1人、市内にお住まいの北岡正治さんです。

#### <北岡氏より受賞しての言葉>

日頃、サイクリングすると、この城山付近をいつも通ります。

その城山の前に川の駅を作り、その名前を募集するということを知り、お役に立てばと思ひ知恵を絞りました。

伊豆の中心地にふさわしい名前をつけなければいけないと思いました。

アウトドア活動をやるのならば、その中心地も伊豆の国市となり、川の駅伊豆城山が中心であり、そこに行けば何でもあると、そんな方向で伊豆全体が盛り上がっていきなればよいと思っています。

## 9 樽酒割り

## 10 閉式のあいさつ

基調共演の米倉先生からも、日本一と言い切ることが大事という話もありました。

これから我々はこの公園を日本一にすべく、アイデアをいただいて、皆さんと共に、さらに人が集まるから楽しい場所を変化していきながら造っていきたいと思います。

川の駅 伊豆城山、我々もこれから頑張って参りますのでぜひ皆さんのご支援ご協力をお願いし、皆さんのご多幸を祈念して、この会を締めたいと思います。

ありがとうございました。